

○ 技術家庭 科

<第1年次>

(1) 単元名：ソフトウェアの利用

(3学年1組)

(2) ねらい：いろいろな機能を使い、自分で構想したものを作品にする

(3) 授業の実際：スーパーYUKIを用いてオリジナルシートを作成する。

(4) 授業分析、協議：活動を通して何をねらうか。つまづいた生徒をどう支援するか。

<第2年次>

(1) 単元名：電気機器の観察  
(電気を光に変換する機器)  
(2学年1組)

(2) ねらい：白熱電球と蛍光ランプの点灯の違いを考え、生活の中でのそれぞれの役割を認識する。

(3) 授業の実際：班ごとに、実際に白熱電球と



蛍光ランプの点灯の様子を観察し、感じたことをまとめる。

(4) 授業分析、協議：実物を提示したので、生徒は興味を持てた。ねらいを達成するための手順。

### 3 生徒の表現力を高めた授業の例

—音楽科の検証授業を通して—

日々の授業で音楽というものに対する豊かな感受性、分析力、表現技能（確かな基礎学力）を培った生徒が、その専門性の高い総合的な音楽力を駆使し、テーマを自分の感性で受け止め、創造した曲を発表（豊かな表現力）する。

検証授業の概要

(1) 題材名：「リコーダーアンサンブルの楽しみ」5時間目 (2学年1組)

めざす基礎学力：○自分の担当パートに責任を持ち、主体的に表現活動ができる。  
○よい演奏のために必要な事柄を理解することができる。

めざす表現力：○楽譜等で表現されている曲想から、ふさわしいテンポ、リズム、アーティキュレーション等を想定し、豊かで創造性あふれる演奏ができる。

(2) 本時の目標：

- ◎曲想表現を工夫したリコーダーアンサンブルができる。
- ・より豊かで質の高い音楽をめざして、演奏を改善することができる。
- ・自他の演奏を客観的にとらえ、改善点を指摘できる。